

お客様とのかかわり

日本化薬グループでは、お客様に最良の製品を提供するとともに、お客様の利益を最大にすることを心がけています。そのために私たちは、製品・サービスの安全性・信頼性に十分な配慮を払うよう努めています。

研究開発体制

日本化薬グループの経営の基本的考えのひとつに、「創造性の発揮 (Creativity)」があります。これは技術と知識の融合による新事業・新製品の創出を目指して、従業員全員があらゆる場面で創造的な活動をすることです。この考えに立って、研究開発においても、ファインケミカルをベースに時代に即応した製品の研究開発を行ってきました。一方で、ニーズの多様化や、製品交代のスピードアップといった環境の変化に対応すべく、研究開発本部を設け、経営資源と研究開発機能を集約統合し、組織的な壁を取り払い、多様な技術をはじめとする知的財産を融合することによって、全社的に総合力を発揮できるようにしています。ファインケミカル分野とその技術を応用した多くの事業分野を持つ強みを活かし、「世界的すさまじい発想。」により、グローバルニッチを指向した高付加価値分野での成長を目指しています。

また、国内外の企業、公的機関、大学との共同研究をはじめとするさまざまな連携やプロジェクトへの参画などを通じて、最先端技術の取り込みや、技術基盤の強化を推進しています。具体的には、コーポレートテーマ制度を設け、新規分野の事業や新製品の創出に取り組んでいます。たと

えば、地球温暖化防止に向けて有望視されている色素増感太陽電池の開発があります。自然に優しいエコエネルギーを供給することで、人類の未来に貢献することを目標に、新規の色素や樹脂を開発して組み合わせ、特色のある次世代太陽電池の開発を行っています。

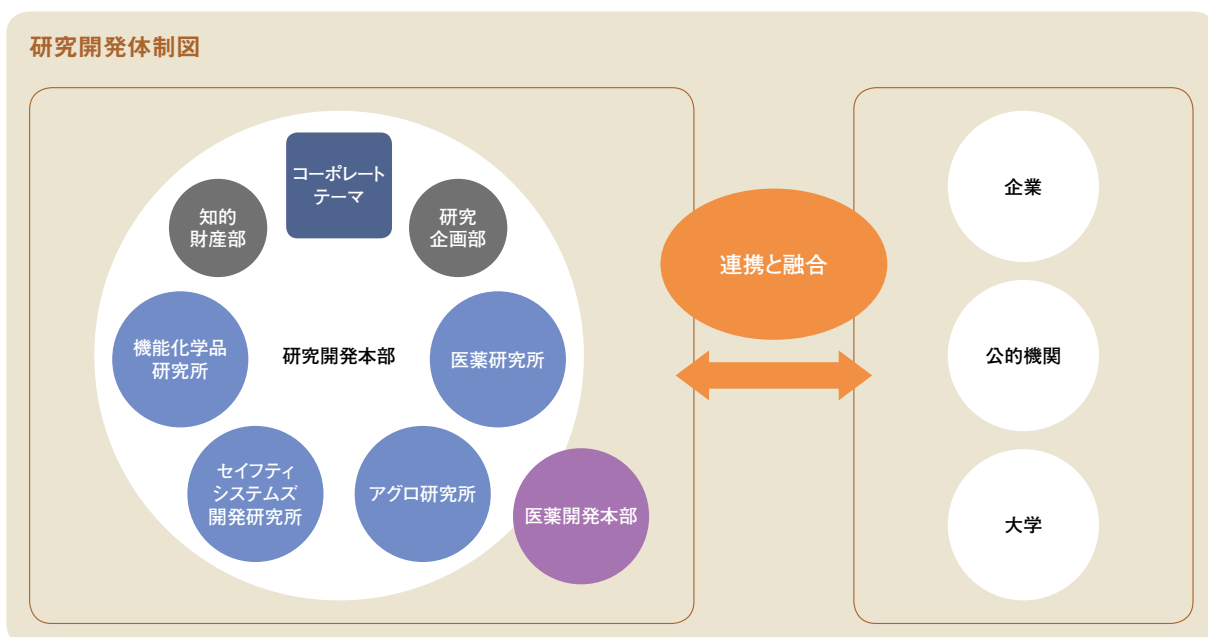
Voice



医薬研究所 生物グループ
評価第一チーム長
岡本 一也

現在の抗がん剤の多くはがん患者さんにつらい副作用を起こし、治療費も高額になります。私は、効き目に優れ、副作用の少ない「患者さんに優しい抗がん剤」を世に送り出すことを大きな目標として研究しています。現在取り組んでいるのは、新しいDDS技術(薬剤を効率良く患部に送り届ける方法)を利用した「ミセル化抗がん剤」で、どんながんにも有効か、また、どのように副作用を抑えられるかを研究しています。さらに、より安価で安全な抗がん剤を使っていたりするため、抗がん剤の後発品が先発品と同じ効き目であることの保証も行っています。

研究開発体制図



医薬品・医療機器の安全への取り組み

薬には多くの場合、病気の治療に欠かせない主作用とともに、望ましくない作用である副作用があります。このため薬には、新薬として承認を受けた後も、医療機関などから報告される副作用を注意深く監視、調査し、必要に応じて対策を取る製造販売後安全管理や調査の制度、そして、「薬の有効性と安全性、リスク&ベネフィットが承認時と変わらないか」「新たにリスク低減を図る必要性は無いか」を見直す再審査などの制度があります。

当社の医薬品・医療機器に関するこの1年間の安全への取り組みの中で、当社が開発した前立腺がん治療薬、乳がん治療薬が再審査^{※1}を受け、承認時の有効性と安全性に変わりないことが確認されました。また、安全管理への取り組みで得られた副作用情報などに基づき、当社が販売する医薬品・医療機器について、添付文書に新たな注意を記載するなどして医療関係者へ情報提供(7品目9件)し、患者様のリスク低減を図りました。

※1 再審査：従来の医薬品とは有効成分や効能効果、用法用量などの異なる新しい医薬品が承認された後、決められた年数、実際の使用の成績などに関する調査を行い、有効性および安全性について再確認を行うこと

■ 「がん専門MR」による医薬品情報提供

抗がん剤に関しては、医療機関に信頼性の高い情報を提供することが重要です。当社には400名を超える医薬情報担当者(MR)がおり、そのうちの約100名はがん専門MRです。がん専門MRは、さまざまな研修プログラムにより、最新の治療方法や学会情報を含め、がん治療に関する幅広い知識を有しています。これらのMRが、がん専門施設や大学病院、さらに地域の中核病院の医師や薬剤師、看護師に対して、信頼性の高い情報を迅速に提供しています。

情報の提供・管理

■ 個人情報管理

日本化薬は、個人情報の重要性を認識し、当社が取り扱う個人情報について、「個人情報保護方針」を制定しています。また、「個人情報保護方針」に基づいて、お客様の個人情報の取得、利用、提供、管理その他に関して規程を制定しています。そして、役員および従業員などに対し、教育、研修を通じて個人情報保護の重要性および必要性の認識を高め、日常業務における個人情報の適正な取り扱いを実践しています。なお、詳しくは日本化薬ウェブサイトに記載の「個人情報の取り扱いについて」をご参照ください。

■ MSDS

お客様が化学物質を取り扱う際に、安全に取り扱うために必要な情報を安全データシート(MSDS)^{※2}に明記して提供することが、化学物質管理促進法(PRTR)、労働安全衛生法などの法律で義務付けられています。当社ではデータベースを利用してMSDSや提供履歴の管理を行い、常に最新の情報を提供することを心がけています。またMSDS作成に必要な化学物質の安全性情報のデータベース化を行い、より精度の高い情報を提供するとともに、GHS^{※3}に対応した情報提供への移行を推進しています。

※2 MSDS(Material Safety Data Sheet 製品安全データシート)：化学物質の安全な取り扱いのために化学物質の供給業者が使用者に発行する資料。危険有害性、安全対策、緊急事態対策などに関する詳細な情報を記載

※3 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)：化学品の分類および表示に関する世界調和システム。化学品の危険有害性を、ある基準に従って分類、わかりやすく表示し、その結果を製品ラベルやMSDSに反映させ、災害防止や人の健康、環境保護に役立てようとするもの

■ 医薬品情報

当社がお客様にご提供している78品目(2009年9月現在)の医療用医薬品と医療機器について、医薬品情報センターには、年間に約2万件の問い合わせが寄せられます。

私たちがご提供する医薬品がお客様にとって「最良の製品」となるよう、一つひとつのお問い合わせに対し、適切な「医薬品情報」をお伝えしたい。センター員はこのような思いを持って、電話でのお問い合わせに的確、丁寧にご回答しています。さらにセンターでは、お客様からのご要望やご意見を社内の各担当部署に報告、提案していきます。

私たちのスローガンは、「すべては適正使用の推進と顧客満足の上昇のために」です。



医薬品情報センター